

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、その人らしい地域生活の継続支援ができるような、介護サービスに徹した理念を作りあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に提示し、毎日、職員全員が復唱している。日常介護の場面で、常に理念が実践できるように取り組んでいる。管理者・職員全員が、日々理念に基づいた話し合いができる機会を設けている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念の浸透を図るため、地域住民に対してパンフレットの配布、介護セミナー開催告知、施設見学など機会がある都度、運営理念について説明している。また、家族等にも見学時および契約時に、十分理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の花屋への買い物、クリーニング屋への立ち寄り、利用者と共に日常的に行っている。防災訓練など、イベント行事への地域住民の参加を、利用者と一緒にイベント告知のチラシを持って勧誘する等、住民との交流を深めている。	○	隣近所との交流を、今後更に深めていきたいと同時に、気軽に立ち寄れる事業所を目指していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	介護セミナーの開催、地域の小学校の運動会など、地域のイベント、老人会、自治会のイベントへの積極的参加、市役所・地域包括支援センター、担当地区の民生委員会、ご家族などと取り進めている地域運営推進会議の定期的開催、担当地区の学徒によるボランティアを積極的に受け入れ、地域との交流に努めている。	○	今後の地域運営推進会議で、更に地域活動に参加する方法を検討している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護セミナーを通して、グループホームこすもすの事業を説明すると共に、認知症についても話し、理解してもらい、相談会を実施することで、地域老人のために福祉貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員全員で、自己評価及び外部評価が介護サービスの向上のために不可欠であることを理解している。自己評価・外部評価を含めた介護サービス向上のための勉強会を日常的に行っており、具体的な利用者本位の介護サービスの役割・改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施した運営推進会議において、取り組み状況の報告や意見交換し、そこでの実現可能なものから、順次現場の介護サービスに反映している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員を講師として派遣依頼し、地域住民、利用者、家族が参加の介護セミナー(こすもす主催)で講演してもらうことで、市町村からのバックアップ体制のもと、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、ホームでのイベント活動(防災訓練)にも市の職員をお呼びし、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員を講師として派遣依頼し、講義や勉強会などで職員全員が権利擁護に関する制度の理解と活用について十分理解し、常に問題意識を持って職務遂行にあたりると共に、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底を図ると共に、社内外研修による虐待防止の勉強会を行っている。また、入浴時などに身体チェックを行い、理由の分からない怪我などがないかどうかを確認するとともに、精神的な変化がないかを日頃から見て、声かけして、様子を観察するなど、虐待の早期発見にも心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学时及び契約時に契約するうえで、必要な事柄に関し、誤解のないよう十分に説明し、理解と納得を得てご利用いただけている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見、不満、苦情を遠慮なく言えるような社内体制を築いている。意見箱の設置を始め、直接管理者や職員に、気軽に言えることができるよう何か困ったことはないか声かけすると共に、必要であれば、運営推進会議への議題として取りあげたり、市町と相談して、利用者のクレームについて、可能な限り、速やかに対応する等、ホームの適正を図っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム内での状態等について、面会時などに口頭で詳しく報告している。金銭管理については、小遣い帳を各利用者に作成し、定期的に家族に報告している。職員の人事異動については、新職員の紹介と併せて報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が意見、不満、苦情を遠慮なく言えるような社内体制を築いている。意見箱の設置を始め、直接管理者や職員に、気軽に言えるよう何か困ったことはないか意見聴取すると共に、必要があれば、運営推進会議への議題として取りあげたり、市町と相談したりして、利用者のクレームについて、可能な限り速やかに対処している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者・職員間で定期的にミーティングを行い、運営方法・改善点について、上下関係なく、意見・提案を自由に行い、よい提案があれば、実行できるものから随時実行している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>月次の勤務表を基に、利用者家族の状況により職員の勤務時間・勤務日の変更に対して、柔軟に即時勤務の調整作業を管理者・職員で行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者・職員の人事異動については、社の方針として必要最低限にとどめ、利用者本意の人事体制を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設長は、管理者・職員が自由に内部・外部研修が受けられるよう、研修日数の確保と研修費用の援助などのバックアップで、常に職員の介護技術及び質の向上に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設に見学に行く機会を作り、良いものはこちらでも活かせるように、ミーティングなどで発表している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>施設長は管理者・職員が快適な職場環境のもとで働けるよう、職場環境の整備、施設長とのコミュニケーション作り、5日間のリフレッシュ休暇を取得させる等で、日頃のストレスの解消に最大限努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>施設長は、管理者・職員が資質の向上のために、デスクを与え、自己啓発の促進を行うと共に、必要図書の提示している。また、モチベーションアップのために、定期的な施設長との個人面談の他、各自の勤務態度・職務遂行能力・業績を反映した昇給・賞与を採っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所にあたり、本人と家族の希望を最大限活かしたプランを立てると共に、職員全員に周知し、本人の介護ニーズがどこにあるのかの情報を共有化し、本人の良き相談者になれるよう信頼関係を築いている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回時の電話による問い合わせや見学、インテークなどで利用者、家族のおかれている状況をよく理解し、利用者・家族の身になって、介護サービスについて説明することで信頼関係を築くと共に、本人にあったベストな介護サービスを提供できるよう努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム見学で迷っていることがある時は、施設の説明だけでなく、利用者や家族がおかれている状況を理解し、入居までの経緯や何が一番困っているかを聴集し、丁寧に説明をして、できる限り不安を軽減できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初回の電話から見学などを通して、信頼関係を築くように心がけ、入所になれば職員全員が馴染めるよう環境などに全力を尽くす努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を共にしながら、それぞれの人格を尊重し、本人には生きがいを感じていただくと共に、職員も仕事のやりがいを感じている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時での会話や定期的に連絡を取ったり、月に一度のこすもす便りにて、本人の状況をお知らせしたりして関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に本人の生活ぶりや変化等を細かく知らせることで、興味を持っていただけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、使い慣れた家具や生活用品等を持ち込んでいただき、食器なども使い慣れたものになっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は入所者同士のトラブルの原因を把握し、不安や支障を生じないように支援すると共に、申し送りなどを活用して、孤立のない生活を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域密着型になり、誰でも気軽に入れるアットホームな場所として、地域に提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で本人からの意向を聞き取り、日常の言動を観察することにより、その人の求める暮らしを把握することに努めている。また、家族とも話し合う機会を持つことにより、よりよいケアマネジメントが構築できるよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントだけでなく、家族や入所前に関わりのある病院や施設からも情報収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに沿って支援するなかで、援助した経過と本人に対する日常の取り組み状態の結果を、ケースや申し送りノートに記載し、毎朝の申し送りで、情報を共有することに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には毎日の会話の中で、本人が希望する介護ニーズを探っている。家族から面会時に希望や不安の相談を聞いた場合には、月次のミーティングにてアイデアを出し合い、各利用者の担当職員を決めて、細やかなケアについて十分に検討し、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6か月～12か月で再度立案しているが、3か月ごとに必ずモニタリングを行い、現在の計画が妥当であるか検討している。状態の変化が見られる場合には、再度カンファレンスを行い、必要時プラン変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に細かく記入したり、その他、水分・食事・排泄・入浴の記録を残す等、介護計画の見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時間など決めず、いつでも面会に来てもらえるようにしている。また、1階のリハビリ機器を必要時活用している。デイサービスのレクリエーションにも参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外部のボランティアの活用、消防職員による避難訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向を踏まえ、よりよく暮らしていけるようケアマネジャーと話し合う等、必要な情報の収集をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに、権利についての講習を依頼し、協力をいただいている。また、定期的に行う地域運営推進会議において、ケアマネジメント等について協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望を基に、かかりつけ医との連携を密にし、随時受診できるように体制を組んでいる。また、日常業務として、薬の調整、ホームでの健康状態の報告を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎週1回、連携医師の回診があり、現在の状態にあった薬の見極めがなされ、利用者は馴染みのある医師に気軽に相談し、不安が軽減できている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看護職員が常に接しているため、気軽に相談できる関係にある。また、看護職員による看護についての内部研修もしており、介護職員による統一したケアの支援体制ができている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には、診療情報提供書や看護師以外にもケアマネージャーが面会に行き、状況確認し、退院の際には、情報交換できるカンファレンスの場を設けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ経験はないが、重度化および終末期になった際のありかたの方針について、本人、家族の意向を最優先に、かかりつけ医と十分に話し合い、本人、家族、かかりつけ医、職員全員が共通の方針をとっていくことを職員全員が把握している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が重度化、終末期を迎えても、その時点で最良と思われる支援対策について、かかりつけ医、看護師、家族、介護職員全員で協力し、検討できるように準備ができている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が別の場所に移る場合は、本人関係者達と情報交換を行い、住み替えに伴うダメージを最大限排除できるよう、十分に対応できるように職員全員で取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>職員全員は、個人情報の保護およびリスクマネジメントについての危機管理の徹底を図っている。個人情報使用同意書を作成し、利用者・家族にホームとしての個人情報に関する対応について理解をいただいている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>本人の思いや希望を尊重し、外出なども自分の意志で決めていただき、本人主体の生活ができるよう、常に問いかける姿勢を職員全員がとっている。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>本人の意向を踏まえ、必要に応じて、ケアマネージャーとの話し合いをしている。外出や行事などでも、本人の希望に沿って参加できるよう支援している。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>ホーム内での出張美容師を希望されている方は、新たに馴染みの関係を築いている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>嗜好を取り入れた個別対応やミキサーなど、食べやすい食事の提供を行っている。準備、後片づけも一緒にしている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>おやつや飲み物などの嗜好品は、個別に保管したり居室に置いてもらう等、必要なときにいつでも食べられるよう支援している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別にトイレの声かけやオムツの交換を行い、排泄記録・排尿パターンの把握をし、できる限りトイレの排泄を促す努力をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日を決めず、本人の希望により提供している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人が居室で自由に休むことができ、休息の場を提供しており、安眠や休息の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の役割や楽しみを、自分のペースで行うことができるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を預かっているため、外出時に買い物ができるよう支援している。小遣い帳を作成し、家族に確認していただき、理解を得ている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出や近所への散歩を支援している。利用者の意向を踏まえ、柔軟に外出できるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出かける時には行き先を一緒に決めていただいたり、個々の希望を取り入れた外出を行っている。	○	今後は、家族を含めた外出支援を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の電話は、気軽に電話できるよう声かけしている。	○	今後は家族を含めた外出支援を行い、便箋なども置き、いつでも手紙を知人に手紙が書けるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の来訪もあり、居心地よく過ごせるように提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内外研修を実施し、十分に話し合いの場を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段がある出口には観葉植物などで、あまり目につかないようし、見守りを強化し、安全に配慮できる状況を作り、開錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の側を離れる際は、職員同士、声をかけて所在の確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	医薬品や危険物は、目と手の届かない場所に保管できている。包丁などの刃物については、料理のできる利用者のみ、使用してもらい、夜間のみ目の届かない所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状況を見極め、起こり得る事故を把握し、ヒヤリハットを作成し、可能な限り、事故防止に努めている。また、事故が起きた時の事故報告書を作成し、事故再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署員、看護職員による定期的な勉強会を設けたり、応急手当のマニュアルを作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民の協力のもと防災訓練を行い、地域で防災運動に取り組んでおり、緊急時に近隣住民の協力が得られるよう支援活動している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に連絡を取り、説明し、理解や協力を得て、申し送りなどの場で話し合うことで、抑圧感を感じない生活ができるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の体調の変化の早期発見に努め、気づいたことは医師や看護師や家族に連絡をとり、指示に従い対処し、申し送りや介護記録への情報の共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の投薬などを記録で残し、薬管理は看護と連携をとりながら行っている。病状の変化により、処方の見直しをしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給などを記録し、適度に身体を動かすよう体操等をすすめている。排便の記録をし、便秘時には医師、看護へ報告している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを促し、拒否がある方なども声かけを工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスのとれた献立を作成している。一人ひとりに合わせた食事形態で提供し(ミキサーやペースト状)、摂取量の記録を残して、給食ミーティングなどで栄養士の協力のもと、栄養や水分の状態の報告と対応について検討している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対して、職員が対応できるように市町村、保健所からの指導通達をもとに、注意喚起を図り、感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ハンドグローブ、消毒剤を使用し、安全な食材管理に努めていると同時に、調理器具などの熱処理や台所の消毒に心がけ、食中毒の時期には感染予防マニュアルに沿って実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に出入りでき、面会ができるよう玄関に飾りをしたり、お知らせなどを貼る等して、親しみやすい玄関周りを工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に花を飾る工夫をしたり、日常品の整理整頓を心がけ、快適な住空間を保てるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に畳で休める所があり、好きな時に好きなように過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものは持ち込んでいただき、居室の家具も位置を変えたりして、居心地よく生活していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	必要に応じて換気を行い、個別にはエアコン、カーテン等で空調に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーにし、廊下やトイレ等に手すりがあり、安全に生活できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個別に歩行や筋力トレーニングをしている、また、個々に外出や趣味の活動をしてもらい、本人らしく長く生活が送れるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日中、自由にベランダを出入りしたり、気分転換ができるよう見守りをしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活を自宅と変わらず、時間に縛られず、個人個人がその人らしく生活できるよう、常に利用者中心の業務を心がけている。特別なことをすることも大切にしているが、何より安全で、健康でかつ平穏な生活が継続していけるよう、職員全員が協力できている。